

小規模多機能型居宅介護「2024年度サービス評価」 総括表

法人名	(株) もくれん	代表者	代表取締役 上田 英範	法人・事業所 の特徴	地域密着型サービスとして、小規模多機能型居宅介護事業所として、その役割をしっかりと認識し、「自宅や住み慣れた地域で少しでも長く生活し続けて頂くために」、サービスの組み合わせの柔軟さも勿論ですが、サービス内容の柔軟さも大切にしています。
事業所名	小規模ホームもくれん	管理者	諸井 望		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所スタッフ	その他	合計
	1		1			1		1		4

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	夕方の振返りの機会などを活用して更に具体的に自己評価に対する振返りの機会を持つ。	内容的にはミーティングや職員会議内で振り返りは行っている。		改善計画の具体化と達成基準の見直しを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	環境の見直しをご利用される方の生活のし易さと、職員による動き易さの両面から検討していく。	職員の業務動線の改善や事業所内の小まめな清掃等については継続して取り組めた。	所庭の草刈り含む環境整備が追い付かない、業務負担になっている。	所庭の草刈りなどの環境整備を職員外にお願いしてみる。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方にもっと私たちについて知ってもらうための取り組みを行う。例えば、地域への散歩や地域の方向けの研修会や行事の検討など。	夏祭りへの出店は継続して行えたが、それでも感染症の流行は続いたため、地域の方を招いての行事などの開催には至らなかった。	感染症が落ち着いた時に地域行事に参加できるようになり良かった。	地域向けの行事を計画したい。
D. 地域に出向いて本人の利用者の暮らしを支える取組み	訪問した際に自宅内以外にも目を向けて、地域との繋がりを意識した支援を試みる。例えば、自宅での散歩、地域での買い物、受診など。	買い物支援、外出支援、受診支援など、それぞれの地域の中での個別支援は一部行うことが出来た。	LINE ワークスを用いたご家族との情報共有を是非進めて欲しい。 情報が可視化されて具体的に皆で共有できるようにして頂きたい。	LINE ワークスの更なる活用を進める。 また地域向けの行事を計画したい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営会議の参加者や会議の内容について新しい取り組みを一つでも多く進めていく。	事業所の感染症状況もあり、参加者を増やすなど、新たな取り組みには繋がっていない。	このところ運営推進会議への参加者が少ないので、地域の参加者が参加できるような調整を行って欲しい。	運営推進会議の開催場所や参加者から再度検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	BCPの訓練にて内容を検証し、更なる改善を図る。	防火、防災、感染症などの訓練を行った。	地域の訓練参加が困難であれば、施設内訓練に地元の方々への参加を促すと良いかも。	BCPの更なる改善を図る。